

令和4年2月21日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、手嶋、今野、柏瀬

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

172号

2月の月例会について

2月の月例会には、杉村楚人冠記念館の高木さんより1月18日(火)から開催しているテーマ展「てがみ展 楚人冠の随筆に登場する人々」の解説がありました。

テーマ展

「てがみ展 楚人冠の随筆に登場する人々」

○概要

会期 令和4年3月13日(日)まで

杉村楚人冠邸に残された資料のなかには、一点一点資料として歴史的な価値が高いものの、一つの企画展をつくるには少し物足りない資料があります。そこで、記念館では企画展を挟む短い期間については、「テーマ展」と称してそうした資料をじっくり紹介する展示を行っています。今回は、いずれも楚人冠の随筆に登場する人物を紹介します。

彼らとの書簡をとおしての交友関係を見るほかに、楚人冠の随筆を読むことで、楚人冠の視点から見た交流がどのようなものであったか、うかがうことができます。手紙と随筆を同時に読み解くことができるのは、楚人冠資料ならではの楽しみです。

○ 結城素明



日本画家結城素明と楚人冠はお互いに若かった頃の新仏教運動以来の付き合いでした。今回の展示では床の間に楚人冠の肖像画がかかっていますが、これは結城の筆によるもので、細かな筆さばきで写実的に描かれています。なお、今回は展示されていませんが、楚人冠記念館の一筆箋の図案に使った楚人冠の絵も結城が書いた

ものです。こちらは、足が長い楚人冠の体形をデフォルメした作品となっています。

今回展示した手紙は、結城が楚人冠の肖像画の作成について書いたものです。そして、楚人冠の書いた随筆からは画家らしく写生に熱心な結城の様子が見てとれます。

○ 三島海雲

三島はカルピス100周年の年に楚人冠記念館の企画展でも取り上げた、カルピスの創業者にして西本願寺文学寮(現・龍谷大学)での楚人冠の教え子です。三島は生涯楚人冠を師と仰いでいました。

今回展示している手紙は、前の企画展ではご紹介できなかったものです。このテーマ展のよいところは、企画展で紹介しきれなかったエピソードもご紹介できる場所ですね。一通は、『アサヒグラフ』の随筆で三島を題材にした作品が発表されたことへの礼状です。その随筆は三島の別荘に楚人冠が招待された時のもの。別荘近辺での三島の乗馬姿の彩色写真を使った絵葉書もあるので、これもあわせて展示しています。彩色写真とは、白黒写真に絵の具で色を付けたものです。



○ 近江一郎と星一

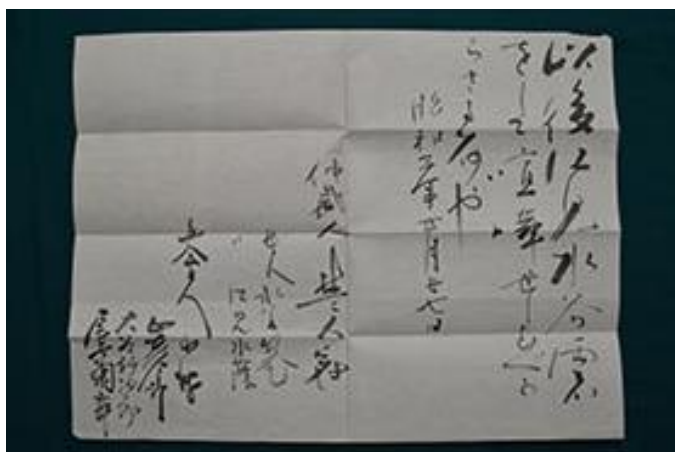
今回紹介している人物で、唯一詳細な経歴がわからないのが近江一郎という人物です。それで

も今回の展示に入れたのは、アビスタにも使われている楚人冠が手賀沼でヨットに乗っている写真、そのヨットの船体を楚人冠にくれたのが近江だからです。バルサという軽量の木を使った船だったそうです。近江からバルサのことを聞いた楚人冠が、冗談半分にこれで一儲けしないか、と声をかけた実業家が星製薬の星一。星は製薬事業のため台湾やペルーに山を持っていたので、楚人冠は星にバルサの話をしたのです。

植民地や海外にも土地を持って事業を展開する星は政治家とも距離が近かったのですが、そのために政争に巻き込まれ、星製薬の経営は傾いていきます。その様子を描いたのが星新一の『人民は弱し 官吏は強し』。そう、SF 小説家の星新一は星一の息子です。新一は父の持つ『楚人冠全集』を愛読したそうですから、得意のショートショートスタイルには、楚人冠の随筆の影響もあるはずなのです。

○ 江見水蔭と巖谷小波

今回の展示資料で一番の「珍品」は間違いなく「喧嘩仲裁状」です。小説家の江見水蔭と演劇評論家の水谷幻花が喧嘩をして口もきかない、というのを、楚人冠が仲立ちし、児童文学者の巖谷小波にも協力してもらって仲直りさせた、という一件の証拠書類です。江見が喧嘩の仲裁を頼むてがみや礼状には、素直な気持ちが書かれています。



「以後江見水谷両君をして喧嘩せしむべからざる者也」。これにて一件落着。

○ 長谷川如是閑

大阪朝日の如是閑と東京朝日の楚人冠という関係にあった二人ですが、言論弾圧事件白虹事件で如是閑が退社し上京してからは、プライベート

の付き合いもありました。今回の展示では、楚人冠が落馬骨折したことを描いた作品「落馬記」を読んだ如是閑が贈ってくれた短歌の葉書を紹介しています。

「下総の吾孫子の翁は聖さびず我落ちにきと人に語るか」

○ 坪谷水哉

現在の東京都立図書館の創設に功のあった人で、博文館の創業家が設けた私立大橋図書館の館長を務めていました。坪谷の葉書で注目していただきたいのは、戦時中稲毛に疎開していること。現在の総武快速線の駅で言うと、西の津田沼も東の千葉も軍都、稲毛だけが別荘地でもあった空襲の危険の少ない場所なのです。戦後の埋め立てで海こそ見えなくなりましたが、稲毛の浅間神社から現在は千葉市民ギャラリーになっている旧神谷伝兵衛別荘の付近にはその面影が残っています。何気ない一枚の葉書ですが、ちゃんと千葉県の歴史を伝えています。

事務局より

2月23日(水)～3月7日(月)までアビスタ2階展示室にて、先月月例会でお話した寄贈資料展を行います。湖北地区に関する資料や、旧井上家資料も展示します。初めて展示する資料も多数ありますので、ぜひ、ご覧ください！また、3月1日(火)から文化・スポーツ課の新人職員が作成した「我孫子遺産」の紹介パンフレットもアビスタで配布します！

現在、まん延防止等重点措置のため、3月6日(日)まで、旧村川別荘新館でのガイド活動を中止しています（別荘は通常どおり開館しています）。月例会は通常どおり行いますので、よろしければご参加ください。

佐原への研修会については、ご案内していましたが、今回は中止となりました。楽しみにしていたのに申し訳ありません。5月26日(木)に研修会を開催する予定です。今度は開催したいものです。また近くなりましたらご案内いたしますので、よろしくお願ひします。

次回の月例会は3月1日(火)教育委員会大会議室で午前9時30分から行います。